

かつしか四季の散歩みち



西水元水辺の公園/P7



開門橋/P1



水元メタセコイア/P9



彼岸花の群生地/P6



西亀有せせらぎ公園/P11



にいじゅくみらい公園/P12



裏門堰親水水路/P3



曳舟川親水公園北/P13



古墨田川緑道/P2



亀有さくら通り/P10



小菅東・西公園/P5



中川水辺のテラス/P8



曳舟川親水公園南/P14



四つ木めだかの小道/P15



かわばた・東四つ木/P16



小松川境川親水公園/P4

目次

ページ	タイトル／サブタイトル	機関誌 掲載年月
1	閘門橋／都内で唯一のレンガ造りアーチ橋	2015.10
2	古隅田川緑道／葛飾区と足立区は古隅田川が区境	2015.12
3	裏門堰親水水路と小菅万葉公園／葛飾区と足立区の区境	2016. 2
4	小松川境川親水公園／葛飾区と江戸川区の区境	2016. 4
5	小菅東・西公園と荒川土手遊歩道／花時計とパノラマ展望	2016. 6
6	彼岸花の群生地／水元公園の隠れた名所	2016. 8
7	西水元水辺の公園／中川の新名所	2016.10
8	中川水辺のテラス／両岸の緑道に増設	2016.12
9	水元のメタセコイア／紅葉美のパノラマ	2017. 2
10	亀有さくら通り／静かな住宅街の花見	2017. 4
11	西亀有せせらぎ公園／四つの公園と農産高が隣接	2017. 6
12	にいじゅくみらい公園／東京理科大キャンパス	2017. 8
13	曳舟川親水公園の北側／足立区の葛西用水親水水路	2017.10
14	曳舟川親水公園の南側／葦茂り自然の小川を感じる	2017.12
15	四つ木めだかの小道／自然の小川を再現	2018. 2
16	かわばたコミュニティ通り／きね川さくら通り／ 東四つ木コミュニティ通り／平和橋桜堤	2018. 4

かつしか四季の散歩みち①

閘門橋

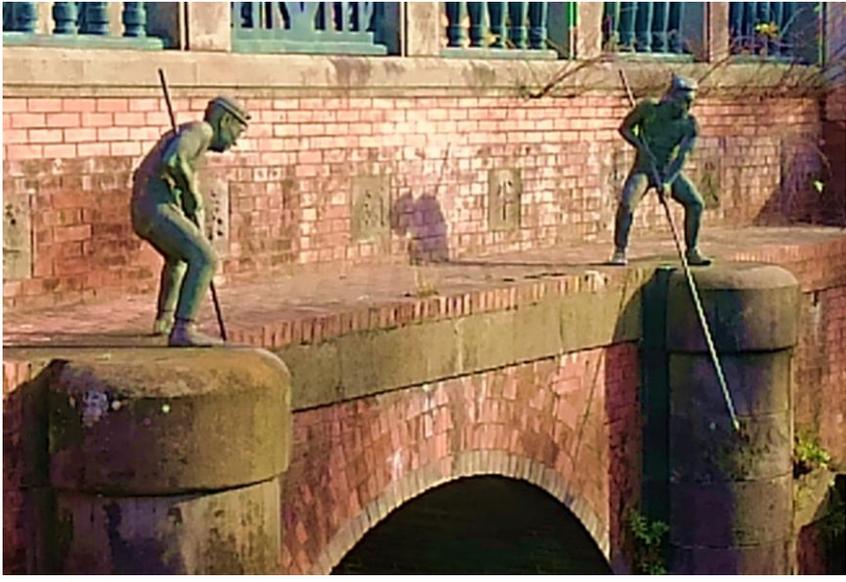
都内で唯一のレンガ造りアーチ橋

葛飾区の最北端にあつて、数メートル歩けば埼玉県の三郷市に入り、さらに数十メートル行くと八潮市という所にある「閘門橋(こうもんぼし)」を紹介します。葛飾区が発行している「葛飾観光ガイドマップ」(発行日:二〇一四年三月一日)の「葛飾今昔まちあるき」によると、閘門橋は「明治時代に水害防止のために造られた橋。(中略)都内唯一のレンガ造りのアーチ橋」と説明しています。



大場川(東側)から見た閘門橋/撮影:2018年4月20日

水元公園の最北端出入口「猿町口」を出ると、石畳みの広い歩道があり、右へ向かうと数メートル先の左側に2枚の金属製プレートが上下に埋め込まれていますが、上段には「閘門橋(明治四十二年完成)」とあり、2行目からの説明文が「閘門橋は、レンガ造アーチ橋としては、東京に現存する唯一の貴重な橋です。橋名の閘門というのは、水位・水流・水量等の調節用の堰のことをいいます。」とあります。続いて江戸時代からの歴史が書いてありますが、後半には「新大場川水門の完成により閘門としての役割を終え・・・」とあり、最後には「閘門橋は、こうした人々の水との生活史を今に伝えるものです。平成二年二月 東京都」となっています。



葛三橋(車道)側のブロンズ像は洪水時に堰板を差し込む姿/17.11.2

下段の小さいプレートには「土木學會選奨土木遺産」(2003)閘門橋(旧「郷半領猿又閘門」)とありますが、カッコ内は「にこうはんりょうさるがまたこうもん」と読み、この地域の古い時代の土地名だそうです。

茶色のレンガ造りにはノスタルジーを感じますが、周辺の見どころは、秋ならば水元公園のメタセコイア(P9「水元のメタセコイア」)、春は閘門橋の上から眺める大場川三郷側の桜と、その後に薄紫の花が咲く梅檀(せんだん)です。

また、閘門橋と新大場川水門との間の大場川沿い(葛飾側)の土手には約千メートル続く桜並木があり、満開時は見事(写真はP7「西水元水辺の公園」参照)です。

バスで行くなら、金町駅南口から京成バス金61八潮駅南口行きで大場川バス停下車、信号を渡って歩道に入り、来たほうへ10数メートル歩くと閘門橋。または金町駅北口から東武バス51三郷中央駅行きで大場川下車。もし、新大場川水門まで歩いたなら、帰りはすぐ近くの土手下にある京成バス金62のバス停から金町駅北口まで。(地図はP7「西水元水辺の公園」、P9「水元のメタセコイア」を参照)



中川(西)側から見た新しい大場川水門。左は八潮市/17.11.2

かつしか四季の散歩みち2

古隅田川緑道

葛飾区と足立区は

古隅田川が区境

葛飾区発行「葛飾観光ガイドマップ」の「葛飾今昔まちあるき」によると、「古隅田川緑道」は、「足立区と葛飾区の境目がジグザグなのは、武蔵と下総の国境がこの川だったため。四季折々の花が楽しめる区境の川沿いの緑道」と説明しています。



小菅交番前付近。左が足立区、右は葛飾区小菅／撮影：2018年4月21日

地形から考えると、古隅田川は荒川水系のように思われますが、実は利根川水系たそうです。現在の中川から綾瀬川までの区境は「西暦645年（大化元年）、大化の改新頃、国・郡・里制度が制定され、足立は武蔵国足立郡、葛飾は下総国葛飾郡に編入され、古隅田川が両国の境となる」と、区境の数カ所にある案内板「古隅田川を巡る歴史」に書いてあります。

アリオ、東京イーストレジデンス（亀有三丁目、中川二丁目）など建物内・敷地内の例外を除くと、区境はレンガ敷石畳の歩道になり、最も狭いところはわずか1・2メートル（アリオの近く）しかありません。



小菅三丁目付近の木道。左が足立区、右は葛飾区小菅／16.5.13

全長約5450メートルなので、全てを巡るなら自転車、歩くなら綾瀬駅から亀有方面へ常磐線右下を通り、境四橋から親水緑道へ。バスなら新小51、綾01で登記所（法務局）、綾瀬駅から葛飾区助成の小菅しゅんかん地域乗合タクシー「さくら」で小菅三丁目、または野崎医院下車。

葛飾区とユニコムかつしかの協働事業「暮らしを彩るパソコン教室」の小菅教室（小菅憩い交流館）は、この乗合タクシーで小菅三丁目、野崎医院下車で約5分、京成タウンバス新小51、綾01の登記所から古墨田川沿いに歩いて約10分です。



かつしか四季の散歩みち 3

裏門堰親水水路と 小菅万葉公園

葛飾区と足立区の区境

葛飾区発行「葛飾観光ガイドマップ」の「葛飾今昔
まちあるき」(その1小菅⑧)に、「裏門堰」と「小菅
万葉公園」は紹介されていますが、裏門という名前の
由来である小菅御殿は紹介されていません。



東京拘置所付近。左が足立区、右は葛飾区小菅／撮影：2018年4月29日



小菅万葉公園。右側の柵内は東京拘置所官舎／18.4.21

その御殿の裏門にあった堰は、前回の「古隅田川」と同様、足立区と葛飾区の境目となっており、区境の数カ所にある案内板「古隅田川総合案内」の地図では、古隅田川に続く区境として一緒に表示されています。この水路の荒川寄りである小菅万葉公園は、万葉集(巻14「552」)で「古須気(こすけ)ろの浦吹く風の…」と詠まれたことに由来するそうです。「浦」とあるのは、この辺に海が入り込んでいたことを思わせます。綾瀬駅で下車、小菅方面へ常磐線を右上に見ながらややジグザクの道を5分ほど歩くと綾瀬川の堤防に突き当たります。信号先の上にある伊藤谷橋を渡り、階段を降りた先が裏門堰です。

歩くのが苦手な方は、東武伊勢崎線の小菅駅で下車または綾瀬駅から小菅じゅんかんの地域乗合タクシー「さくら」(200円)でふくろう堂、小菅駅下車。



足に自信があるなら、「五反野親水緑道」を東武線の五反野駅まで歩くのも一興かもしれません。とくに裏門堰付近の桜は見事なので、春先の散歩はお薦めです。裏門堰から始まる五反野親水緑道の桜は、常磐線や千代田線からも眺めることができますので、電車から満開を確認してからでも良いでしょう。

かつしか四季の散歩みち 4

小松川

境川親水公園

葛飾区と江戸川区の区境

「小松川境川親水公園」は川が二文字なので、二つの川にちなんだ公園のようですが、昔の東小松川村と西小松川の境を流れていた境川を利用した江戸川区2番目の親水公園で、全長は約4キロメートルです。昔の川を利用したことで、このあたりの親水公園と同じように、曲がりくねっています。



親水公園入口/右が葛飾区新小岩、左は江戸川区/撮影：2018年5月27日



お花見で賑わう中央森林公園（江戸川区）/18.3.25

葛飾と江戸川の区境となっている部分は1キロ未満ですので、3キロ以上が江戸川区内となっています。昭和61年に「ふるさと『手づくり郷土賞』ふれあいの水辺」のプレートが設置されています。
しかし川底まで、ほとんどがコンクリートで、やはり作りすぎの感があります。作った江戸川区もその反省があったようで、その後には作られた親水公園は、自然を生かした、例えば「一之江親水公園」のように動植物が生息できるような小川になっています。



ほとんど自転車進入禁止ですが、左右に舗装道路があります。歩くならJR小岩駅から錦糸町駅経由両国駅行、船堀駅行（錦27）で菅原橋か江戸川区役所下車。
JR新小岩駅から船堀駅経由西葛西駅行（新小21）、葛西駅行（新小22）で江戸川高校か江戸川区役所下車、葛西駅経由東京臨海病院行（新29）で本一色下車、瑞江駅経由江戸川スポーツランド行（新小71）で本一色下車。

かつしか四季の散歩みち 5

小菅東・西公園と

荒川土手遊歩道

花時計とパノラマ展望

「かつしか四季の散歩みち」1・2・3で紹介した葛飾区発行「葛飾観光ガイドマップ」葛飾今昔まちあるき／その1・小菅」は、「今昔」なので歴史をたどる道案内となっており、散策の最後⑧が「古隅田川緑道」（P2で紹介）、⑧のうちaは正覚寺、bが「小菅東スポーツ公園」、cは「小菅西公園」となっています。



小菅東スポーツ公園の日本庭園／撮影：2018年4月29日

歴史よりも花と緑、樹木や水辺を好きな人は古隅田川緑道の最下流（バス停／登記所 野崎医院 小菅三丁目）から出発、スポーツ公園、西公園、荒川土手・河川敷、堀切菖蒲園への散策をお勧めします。ただスポーツ公園はその名の通りなので、日本庭園や桜の花を見る目的だけで行くには、ビル5階ぐらいの高さまで登るため、足腰に自信の無い人にはちよっときついでしょう。水再生処理センターの屋上にある西公園も5階ぐらいの高さですが、新設のフットサル場にエレベーターがあります。そこから見える荒川のパノラマにはスカイツリーも見え、公園の中央にある花時計も楽しむことができます。



小菅西公園の花時計／18.4.25



また、ここまで来たら、荒川の土手や河川敷を散歩したり、さらに進んで「堀切水辺公園」や「堀切菖蒲園」、「紫陽花の道」へ行くのもお勧めです。葛飾区とユニコムかつしかの協働事業「暮らしを彩るパソコン教室」の小菅教室（小菅憩い交流館）は、こすげ小学校の前で、バスなら綾瀬駅から葛飾区助成の地域乗合タクシー「さくら」で小菅三丁目、野崎医院下車、信号の下にある交番の前を通り、約5分ですが、このワゴン車は停留所以外の希望する場所で下車できますので便利です。

かつしか四季の散歩みち 6

彼岸花の群生地

水元公園の隠れた名所

ネットで「葛飾区の彼岸花」と検索すると奥戸8・5・19の宝蔵院が出てきます。宝蔵院は「葛飾観光ガイドマップ／葛飾今昔まちあるき／その10・高砂・奥戸⑨」で「赤・白・黄の彼岸花が咲き揃う」と、葛飾



彼岸花 (赤) と イタドリの花 (白) / 撮影: 2015年9月19日



林の中へ続く彼岸花 / 15.9.19



芝生広場の紅葉 / 17.11.29



区発行の「かつしかの地図・街歩きおすすめルート」／「高砂・奥戸／中川沿いの風景を楽しむ」では「9月下旬は境内に色とりどりの彼岸花が見ごろ」と紹介されています。
 葛飾区は河川敷や土手などに彼岸花が数多く見られるので特に珍しくはありませんが、約千株の群落となると宝蔵院になるのでしょうか。しかし水元公園東の群落は約一万株といっても過言ではありません。
 水元公園東のCブロック(東金町八丁目地区)／花菖蒲園やオニバス池Bブロックは、春には桜、藤などの花が見ごろの時でも人が少なく静かです。

彼岸花は円形の芝生広場を囲むように約百メートルの半円形状に密集しています。ただすぐそばに生えている林の葉の上に被さり、また同じ場所に茂っているイタドリに遮られ遠くからは目立ちません。
 近いバス停は東金町八丁目／東武バス金50ですが、朝夕のみの運行。本数も少ないので、お薦めは金町駅南口5番乗り場発の東武バス金52・金54三郷方面行きで高須下車。草に埋もれた小川に沿って外郭環状道路を目指し、右に雑木の丘を眺めながら直進、高速道路をくぐった先の左にある駐車場の奥が彼岸花の群生地です。

かつしか四季の散歩みち7

西水元水辺の公園

中川の新名所

この公園に設置されている葛飾区の案内板に『川にふれにふれあう中川の新名所』づくりをテーマに、中川の自然景観を活かした公園です。園内には、生物の生息場・人と川のふれあいの場としてワンドや自然観察湿地のほか、お年寄りから子供まで楽しむことのできる交流広場や多目的運動場などがあります。『川にふれあえる場』として、緩傾斜護岸とワンド（入り江たまり）がつけられました。ワンドは水生植物や昆虫、魚



緩傾斜護岸とワンド（中央、左は中川／撮影：2018年5月20日

類、鳥類などの多様な生物の良好な生育環境となりま
す。『ワンドは葛飾区の西水元水辺の公園自然再生区
域に指定されています。自然再生区域は、自然が再び
生き返るようにつくられた場所です。平成19年3月
31日指定』とあります。

葛飾区内の中川両岸には遊歩道がありますが、柵の
ため直接水に触れられません。しかし、ここは緩やか
に傾斜した護岸であるため、また水辺に降りる階段が
三ヶ所もあることから直接水に触れることができます。
平成19年3月、三菱ガス化学の裏から大場川水門ま
で車道両側に遊歩道が完成、徒歩・自転車・自動車（飯
塚橋から水元猿町までは一方通行）で通行可能です。

徒歩なら亀
有駅北口から
東武バスの有
25・有27で
葛飾車庫で下
車し、土手に
登ったら上流
へ。金町駅北
口の京成バス
金62で大場
川水門下車し
土手に登った
ら下流へ。

自転車なら
東京理科大学
敷地内の花や
樹木を見物
（P12参照）
三菱ガス化学
の裏から遊歩
道の中川側に入
り、飯塚橋
下を直進。



大場川水門から見た大場川の桜並木／17.4.7



水辺の公園を散策後、もし飯塚橋の方から来たの
であれば大場川水門へ。Uターンして住宅側を通る
と、まだ少し野菜畑などが残っており、季節感を味
わえます。

もし桜の季節であれば、大場川水門から見る大場
川（右方向の葛飾区側）の桜並木は見事で、提灯無
しの桜トンネルは貴重ですので、大場川の土手を通
り、水元猿町のバス停（有51／亀有駅〜三郷中央駅）
まで行くのもお勧めです。

かつしか四季の散歩みち 8

中川水辺のテラス 両岸の緑道に増設

中川は葛飾区中央を流れ、区民に身近ですが、旧中川は昭和50年頃からの護岸工事で中川左岸・右岸緑道公園が整備され、遊歩道として親しまれています。しかし旧中川地域は海拔0m地帯なのでコンクリート防波壁が高く、水辺に近づくことができませんでした。平成20年頃から護岸耐震補強工事が行われ、現在工事中の立石八丁目・奥戸7丁目・高砂1丁目の現場には次のようなお知らせが掲示されています。



テラスへ降りる階段と壁画・花壇／撮影：2016年12月5日

「東京都では、地震に対する安全性を高めるために、中川において河川内の地盤強化等による耐震対策事業を進めるとともに、水辺に親しんでいただけるようテラス整備をあわせて行っております。」
 このように新しく水辺に設置された左右の歩道は「テラス」と名付けられ、平成22年7月に中川緑道公園の一部として開園しましたが、増設工事は左右とも上流へと今も続けられています。

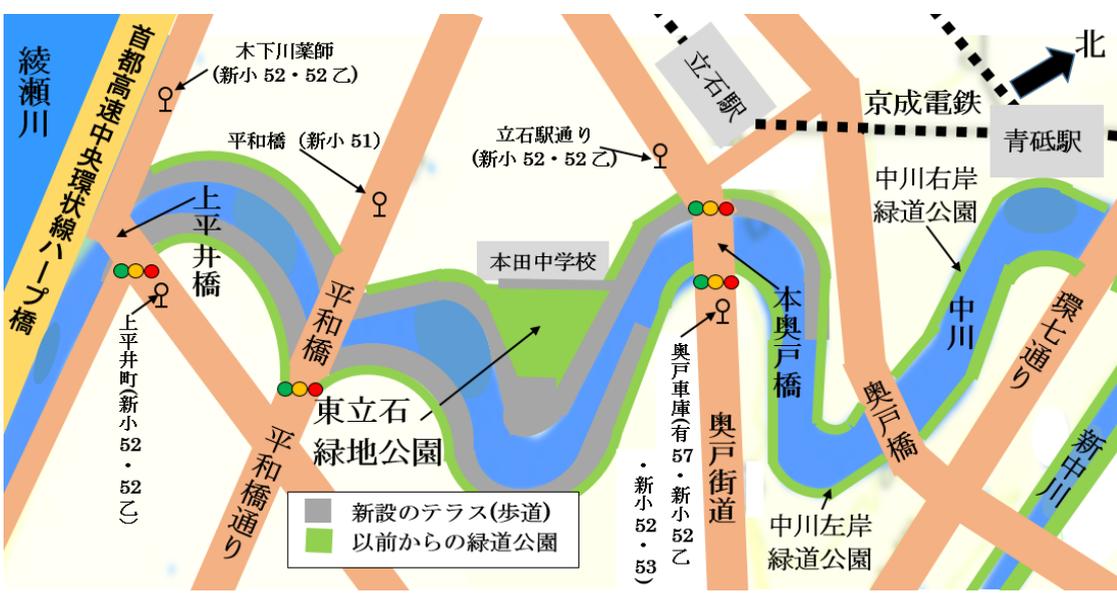
右岸（四つ木、立石側）は上平井橋から前記のように立石八丁目まで完成、左岸（西新小岩、奥戸側）は奥戸一丁目まで完成し、すでにウォーキング、釣り、ジョギングなどで楽しんでいる人々が散見されます。

左右の緑道公園から新設テラスに降りる階段は十数か所あり、簡単に水辺に近づくことができます。階段を降り降りしますので自転車は無理ですが、幅が広く、ベンチもありますので、家族連れの散策には最適です。

また水辺の防波壁には住んでいる魚類のイラストが描かれ、テラスには樹木を植えた花壇が設けられて季節の花々を楽しむことができます。



東立石緑地公園（奥の白い建物は本田中学校）／18.4.8



右岸のほぼ中央には広い東立石緑地公園があります。平成11年まであった田辺製薬の子会社・立石製薬の跡地で、平成20年に開園しました。盛り土したならかな多生の丘には、子どもが楽しめる遊具、大人のための健康器具などが設置されていますが、大規模災害時の避難場所としても使えるようになっていきます。

かつしか四季の散歩みち 9

水元のメタセコイア

紅葉美のパノラマ

都立水元公園のイベントは、桜（水元公園全体で約千三百本）や菖蒲だけではありません。毎年12月初旬に「メタセコイア紅葉まつり」が行われています。



せせらぎ広場西側のメタセコイア／撮影：2017年12月6日

針葉樹メタセコイア（アケボノスギ／曙杉）が「生きていく化石」と呼ばれているのは、数百万年以前の地層から日本には無かった木の化石が発見されたためです。日本への再上陸は、昭和24年に皇居に植えられたのが最初で、その後輸入された種や苗、また挿し木で全国に拡がったそうです。

新緑も美しいのですが、見事なのは紅葉で、水元は全体で千八百本、対岸のみさと公園には全二百六十本ありますので、水元大橋付近から眺めるとパノラマ的なスケール感があり、圧倒される美しさです。

その他の紅葉・黄葉で美しいのは駐車場のモミジバフウ、その近くのポプラ並木（全約二百本）、ユリノキ（百合の木）。

花が美しいのは5月に咲くユリノキ、センダン（梅檀、グリーンプラザの北西側のナンジャモンジャ（ヒトツバタゴ）などの珍しい木もあります。

鳥の種類も多く、バードウォッチングが盛んで、カワセミが人気ですが、運がよければキジ（雉）の雄や白鳥を見かけることもあります。

バスは金町駅南口から京成バス金63がさくら堤を通るので最適ですが、3〜11月土・日・祝の運行なの



駐車場のモミジバフウ／17.11.1



で、平日と12〜2月は金61、金62の水元公園下車、金61の大場川で下車。



駐車場付近のユリノキ／16.11.15

かつしか四季の散歩みち10

亀有さくら通り

静かな住宅街の花見

「亀有さくら通り」(亀有二丁目、二丁目、青戸八丁目)の良いところは、お花見の場所によく見られるようなお祭り用の提灯が無く、景気をおおるようなうるさい音楽も流れていないことです。また自動車の往来も少なく、人通りが少ない割にはレンガ敷きの歩道が広く、のんびりと見物しながら歩けることです。



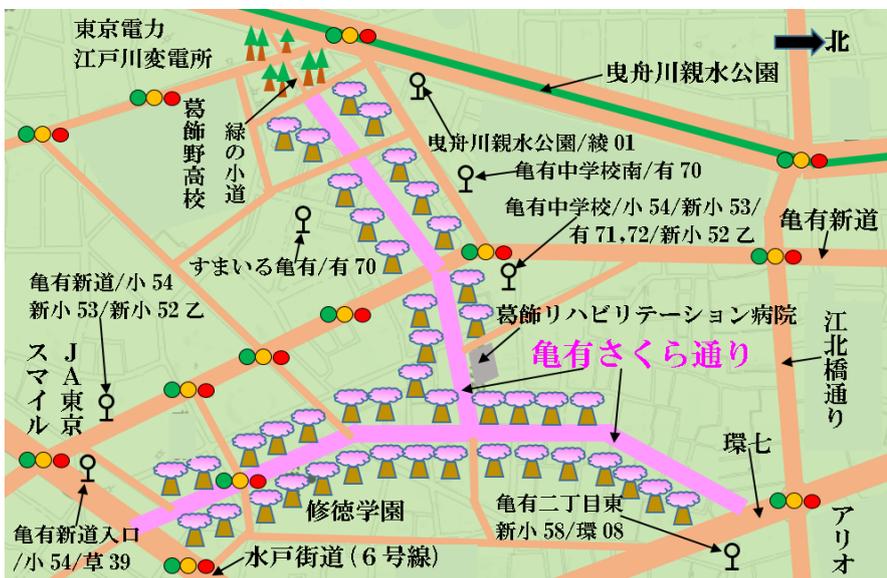
すまいる亀有付近/撮影：2017年4月7日

行き方は、区報では亀有駅から徒歩15分となっているが、バスなら近くまで行けます。最も近いバス停である亀有中学校は亀有新道を通る系統の小54、新小52乙、新小53、有70・71・72などが最適です。

平成28年6月に開院した葛飾リハビリテーション病院前歩道の左右には二つの藤棚、数カ所のベンチもあり、散歩道に適していますが、飲食店は見当たらないので、飲み物は持参がおすすめです。

周囲が個人用の住宅、病院、学校、幼稚園であることなどがこのような環境になったのだと思われませんが、眺めて楽しむのは、上を向いて見る桜だけでなく、下を向いて見る各住宅で育てられた植栽の花々も彩り豊かで、名の知られた桜の名所とは一味違った愛すべきお花見の散歩道となっています。

平成29年3月25日発行「広報かつしか」は「春は区内の桜を見に行こう!」区内のお花見スポット」という見出しで12カ所の桜の見所を紹介し、各スポットの桜の本数が書いてあります。「亀有さくら通り」は約150本で、この本数は「かわばた・東四つ木コミュニティ通り」と同じで、水元公園(約730本)、水元さくら堤(約600本)に次ぐ3番目の多さです。



修徳学園(右)付近/18.3.30

かつしか四季の散歩みち11

西亀有せせらぎ公園

四公園と農産高隣接

公園の名前は「せせらぎ」となっていますが、期待するほどのせせらぎはありません。この公園の良さは、イチヨウ（銀杏）並木が北側から見るとT字型になり、足元には季節ごとに異なる花々が咲いていて、散歩を楽しむことができますし、他にも次のような楽しみもあります。



西亀有せせらぎ公園のイチヨウ並木／撮影：2018年4月29日

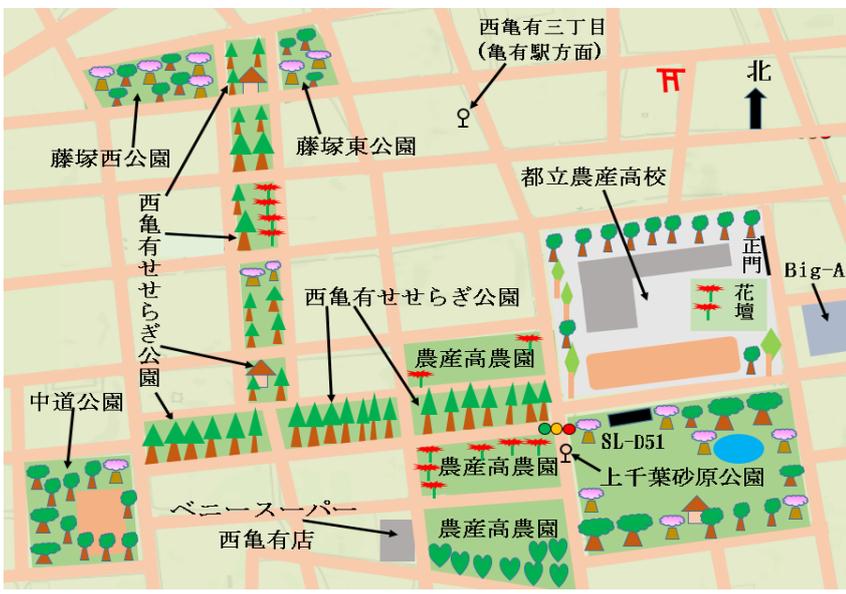
東西に連なる並木の両側には東京都立農産高等学校の農園があり、外周垣根の根元には季節の花が植えられたり、花のリースとして飾られたり、垣根の間からは農園に植えられた花々を見ることが出来ます。また正門の外側と内側にも花が植えられています。校内は「無断立ち入り禁止」となっています。せせらぎ公園は四つの公園（藤塚東公園、藤塚西公園、中道公園、上千葉砂原公園）と繋がっており、中でも一番大きい「上千葉砂原公園」は、「広報かつしか」（平成29年3月25日号、No.1690、7面）によると約90本の桜の木があるそうで、「区内のお花見スポット」の一つに選ばれています。

また蒸気機関車「デゴイチ」D51、子供の遊具などが設置されていますが、葛飾区のホームページによると、交通公園としての施設のほか、園内にはふれあい動物広場があり、リスザル、ヤギ、ミニブタなどの動物が飼育されており、またポニーに乗ったりモルモットに触れることができます。



イチヨウ並木の紅葉／17.11.16

行き方は、京成タウンバスの有57（JR亀有駅の南口）お花茶屋駅経由、葛飾区役所・タウンバス車庫（の上千葉砂原公園）下車。



都立農産高校正面玄関の花壇／17.5.28

かつしか四季の散歩みち12

にいじゅくみらい公園

東京理科大キャンパス

「にいじゅくみらい公園」は、「東京理科大学葛飾キャンパス」によって南北に隔てられています。南側の公園は、外見には理科大キャンパスとほぼ一体化しており、広く緩やかな丘陵には芝生やシロツメクサによって緑が広がっています。そこには樹木が植えられ、区民の憩いの場となっています。北側の公園は運動場で、多目的広場はサッカーなどで賑わっています。



にいじゅくみらい公園南/奥の3つの建物は理科大、
左=図書館、中央=管理棟、その奥白い建物は都営住宅/撮影：2018年4月29日



東京理科大学の正面入口より奥の図書館を望む/18.4.20

理科大キャンパスの建物に部外者は許可なく立ち入ることはできませんが、敷地内は散策することができます。建物と建物の間とか、建物のすぐそばには、いろいろな種類の花期が異なる草木が植えられています。ほかではなかなか見ることが出来ない珍しい草木もあり、季節ごと、月ごと訪ねてみる楽しさがあります。

中央に位置する管理棟1～2階の学生食堂は学生向けの価格になっており、一般の人でも利用可能なので、散策のついでに立ち寄ってみるのもお勧めです。



JR金町駅北口から、徒歩約10分、または京成バス金02出入(金町営業所行)でにいじゅくみらい公園三菱ガス化学東京テクノパーク、公園南で下車。なお、アリオ亀有循環シャトルバス/新宿・南水元ルートなら新宿六丁目南、三菱ガス化学、公園南で下車(1時間に1本のみ、毎月第3火曜日は運休)。

かつしか四季の散歩みち13

曳舟川親水公園北側 足立区葛西用水親水水路

葛飾区、南北のほぼ中央、東西のやや西に位置する曳舟川親水公園は全長約3キロメートル、その北側（江北橋通りとの交差点から区境の古隅田川緑道まで）に約700メートルの、水路のない緑道が連続して続いています。



曳舟十四橋バス停付近の曳舟川親水公園／撮影：2018年5月11日

北側の緑道部は、古隅田川緑道を境に大きな水車から始まる足立区の葛西用水親水水路に繋がっており、さらにその先、大谷田陸橋の下をくぐると葛西用水桜通りに繋がりますので、自転車やバイクでの散策なら変化のある水辺を楽しむことができます。

曳舟川の方は、水路が浅く、小川のように水草が繁り、セリやクレソンが生え、またザリガニを捕ったりできるようになっていきます。真夏には曳舟十四橋バス停付近にある水遊び広場の休憩所屋根軒先からシャワーのように水が飛び出し、子供たちが水遊びを楽しんでいますので、文字通り親水となっています。



東和親水公園付近の葛西用水親水水路／18.5.12

葛西用水の方は、大谷田陸橋付近の上流は水路や水深は浅くなっていますが、東和親水公園付近になると鯉が泳げるような深さとなり、また水路も低くなり、見て楽しめる親水水路となっています。

JR亀有駅から最適ですが、区の東部方面からは亀有新道を通るバスで亀有二丁目、西部からは綾01で曳舟川親水公園または曳舟十四橋下車がお薦めです。



かつしか四季の散歩みち 14

曳舟川親水公園の南側 葦茂り自然の小川を感じる

前回は曳舟川親水公園の北側と、それに続く足立区の葛西用水親水路の紹介でしたが、今回は曳舟川親水公園の南側（お花茶屋駅付近から水戸街道まで）をご紹介します。



自然の小川のような水草／撮影：2018年5月5日

南側も北側と同じように人工の水路が主役となっていますが、北側や葛西用水より昔の小川のように兩岸に草が生え、自然な雰囲気を出しています。一部分ですが、下記図の中央あたりは葦が密集して茂り、水面が見えないほど繁殖しています。



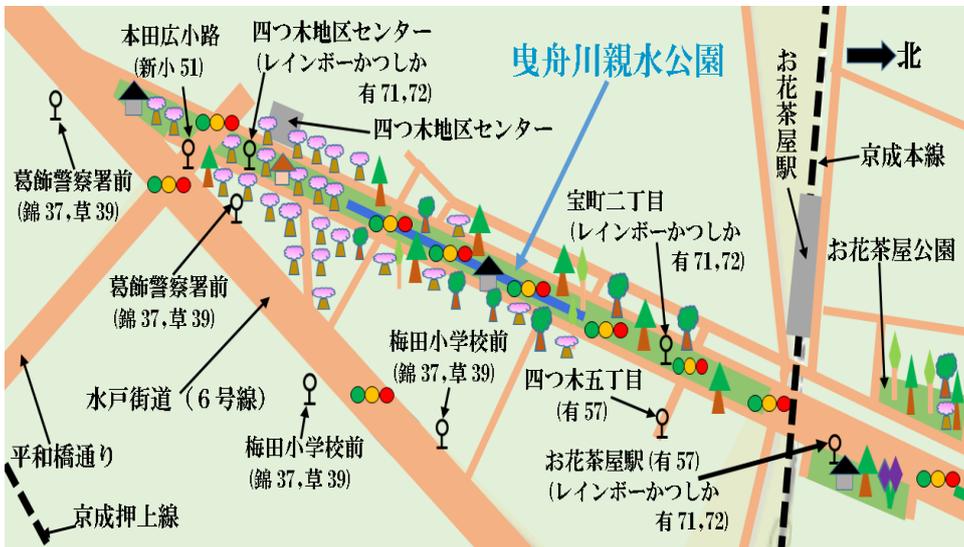
水面を覆いつくほどの葦／18.5.5



桜の木が3列で、桜のトンネルが二つ／18.3.30

四つ木地区センターのバス停付近は桜の木が三列で、開花時は桜のトンネルが二つできていますが、桜が終わった後も雰囲気の良い木陰の林となっています。

バスはJR金町、亀有、綾瀬、新小岩から。地図のバス停名と路線番号を参考に。レインボーかつしか金町・亀有からウエルピアかつしかへ行く小型バス（有71・72）は車窓だけでも楽しめます。なお6号線を通る錦37・草39は上りと下りの場所が異なりますのでご注意ください。



かつしか四季の散歩みち15

四つ木めだかの小道

懐かしい昔の小川を再現

水戸街道（6号線）と平和橋通りが交わる本田広小路交差点から荒川方面へ向かうと、水戸街道にまたがる横断歩道橋があります。その左側から小川があり、「四つ木めだかの小道」という縦書きの標識柱があります。

その少し先には横書きの標識があり、そこには「曳舟川自然再生区域」四つ木地区「自然再生区域は、自然が再び生き返るようにつくられた場所です。大切に守り育ててください。メダカ、トンボのやごなどをを守るため、コイ、ブラックバス等の魚を放流しないでください。また、この小川に適さない魚・植物は、排除します。平成9年10月3日指定 葛飾区」と書いてあります。



小川の北東側、右手は住宅地／撮影：2018年4月28日

自然再生区域には、これまでに紹介した「曳舟川親水公園」P13・P14、「古墨田川」P2、「西水元水辺の公園」P7なども指定されています。



右手が歩道と墓地、水戸街道は左手／18.3. 1



歩道は左側のみ、その左手が墓地／18.4.28

この小川は、自然再生区域に指定されている他の小川よりも、より自然で、昔の田舎にあった小川の懐かしい雰囲気を出していますが、少し短いのが残念です。

行き方は、電車駅から歩くなら京成線の四ツ木駅から約10分ですが、バスなら金町駅前発・草39、青戸車庫前発・錦37、新小岩駅東北広場発・新小52です。

なお、土地表示は「四つ木」ですが、都営バスと京成電車は「四ツ木」、京成タウンバスが「四つ木」という表記になっていますので、左の地図はそれに従いました。



かつしか四季の散歩みち16

かわばた／東四つ木

コミュニティ通り

八重桜の満開で二度目のお花見

平成30年3月25日発行の広報「かつしか」5ページに「区内の桜を見に行こうー主なお花見スポット」という見出しで「かわばた・東四つ木コミュニティ通り」の桜は約140本、立石駅から徒歩5分、そして「東立石さくらまつり」は4月15日(日)午前10時から午後2時までとの紹介がありました。

開催日が4月15日ということとは「かわばたコミュニティ通り」の両側にある「八重桜」約60本の満開に合わせた桜祭りということでしょう。



かわばたコミュニティ通りの八重桜／撮影：2018年4月8日

桜は、やはり染井吉野が好きという方々には、平和橋通りからの「東四つ木コミュニティ通り」をお勧めします。

ここにも道の両側に桜が植えられ、自動車の通りも少なくなり、ゆっくり見物できます。

「きね川さくら通り」も染井吉野で、綾瀬川のほうから歩くとすぐ立派な赤い木下川薬師の仁王門となり、門の左右に金剛力士像があります。



木下川薬師の仁王門／18.3.30



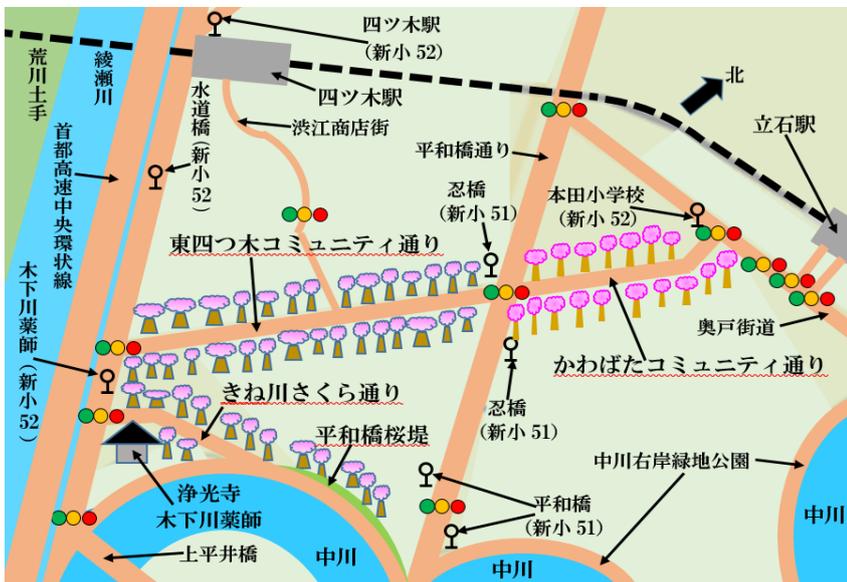
東四つ木コミュニティ通りの染井吉野／18.3.30

その奥には高くそびえる鐘楼がありますので、境内に入り、見物したくなるかもしれません。その先、中川右岸緑地公園に向かうと「平和橋桜堤」にも大きい染井吉野があり、お弁当を拡げる草地もあります。

徒歩なら四ツ木駅から「東四つ木コミュニティ通り」までは改札口右手の渋江商店街を通過して約10分。綾瀬川沿いに木下川薬師まで行くには10分以上かかるでしょう。



平和橋桜堤／18.3.30



葛飾の風景



中川左岸緑道公園（西新小岩）のタチアオイとハーブ橋
撮影：2017年6月6日／8ページ参照



宝蔵院（奥戸）の鐘楼と彼岸花
撮影：2017年9月11日／6ページ参照



堀切菖蒲園近くの紫陽花の道／
撮影：2018年5月26日／5ページ参照



水元公園の花菖蒲広場付近で偶然出会った雉

撮影：2016年10月21日

上の写真は、「かつしか四季の散歩みち」取材中に撮影した写真です。記事には掲載できなかった中から、特に印象に残った写真を「葛飾の風景」として収録しました。(行)

ユニコムかつしかの機関誌「ユニコム通信」Vol. 56 (2015年10月15日発行) から連載が始まった「かつしか四季の散歩みち」は、2018年4月15日発行 Vol. 71 の16回で終了しました。この小冊子は、その16回分を1冊にまとめたものです。

なお、記事によっては掲載時の文章に加筆修正したものや撮り直した写真を掲載したものがあありますのでご了承下さい。

隔月発行機関誌の掲載写真は、スペースの制約から小サイズになったことで、この小冊子では拡大したいと思いました。しかし撮影した当時の季節、時間、天候などの関係からベストではなく、拡大には向きだったので、撮り直すことにしました。

まず天候。撮影対象に当たる太陽光の角度を考えて午前にするか午後にするかなど毎朝空を眺め、自転車走行のために強い風がないかも確かめて撮影に出かけました。そのため目次の機関誌掲載年月と写真の撮影年月とはかなりの年月差があります。天気が良い日を選んで出かけたので楽しいサイクリングでしたが、手首から先が真っ黒に日焼けしました。

機関誌掲載時の本文では地図を作製したため葛飾の地理に詳しくなりました。またバス停を紹介しましたので、日常生活でのバス利用・乗り換えがスムーズになり、実生活で大いに役立っています。連載を担当して良かったと思っています。

(行)

特定非営利活動法人



ユニコムかつしかは
パソコンやITの普及支援を通して
豊かで温もりのある地域コミュニティを
つくることを目的に活動している
NPO法人です

■主要パソコン教室（区協働・委託等）

- ・暮らしを彩るパソコン教室
- ・シニアのためのIT講習
- ・障害者パソコン教室
- ・テクノプラザかつしかパソコン講習会
- ・えみふるPCサロン
- ・江東区産業会館iPad講習

■自主事業

- ・ユニコムかつしかパソコン教室（個人レッスン）
- ・日商PC検定試験（地元葛飾でネット試験が受けられます）
- ・チラシ・会報・Webサイト制作支援



お問い合わせ

〒124-0012
葛飾区立石 3-30-18
☎ 03-6905-8080 Fax: 03-6657-6185
E-mail: info@uc-k.net
Website: http://uck80.com
※電話によるお問い合わせは
平日月水金の9時から17時まで